

ありきの行政

市民と歩む会

代表質問者 河本英敏



黒見

河本

村田

市政を取り巻く環境

質問↓厳しい財政運営の中、子ども医療費助成を拡充、不育症の治療へ助成を始めたことに一定の評価をしたい。しかし、扶助費の肥大化は、財政運営を厳しくする。当局の言われる集中と選択で働く場所づくりへの投資を進めるべきではないか。

答弁↓総合計画・後期実施計画に位置づけたものについては、限られた財源だが確保したい。

給食施設の大規模化へ疑問の声

質問↓給食の安全安心は当然、センター運用から見えたものは「食育・地産地消」への取り組みは不十分。給食検討委員会委員と面会して、論議の内容をお聞きした中からは、初め大型化に疑問の声が多く出されていたとのこと。しかし、当局から場所の確保が困難、また財政が厳しい中、合併特例債の活用で大型

化しかないなど、できない理由を羅列して、委員の口を封じたものではないのか。

答弁↓職員ができない理由を羅列して、委員の口を封じたようなことはない。

質問↓学校耐震化事業で付帯施設の基準は何か。中学校の工事中、教室数の確保はどうか。幼稚園園舎の耐震化の状況はどうか。

答弁↓国の補助要綱、文部科学省の学習指導要領に基づき必要な備品等を整備し、子供たちのよい教育環境の確保を目指したい。規模の大きい学校では、最小限のプレハブ教室もやむを得ない。園舎の耐震化は、総合計画後期実施計画の中で検討する。

質問↓学校給食に対する市民のパブリックコメントの意見概要と情報公開の時期と方法、説明会での意見をどう活かすのか。整備計画の最終案は誰が書くのか。

答弁↓新たに約1億3千万円の市費が必要。

質問↓子ども医療費助成制度の拡充について、小学校卒業から中学校卒業まで無料化とすれば必要となる財源は。

答弁↓募集要綱に従い公開の予定。疑問、不安を払拭できるよう十分説明し、計画実施にあたっては意見反映に努めたい。最終案は事務局がまとめ、市長が決定する。

質問↓子ども医療費助成制度の拡充について、小学校卒業から中学校卒業まで無料化とすれば必要となる財源は。

質問↓久米、勝北、加茂の給食について「楽しい給食」「美味しい給食」などの発言が多く聞かれるが、学校給食施設等整備計画案において、なぜ新大型給食センター事業を考えるのか。合併特例債は現在より悪くなる方向に発行する事業債ではない。

答弁↓給食費の格差解消や献立の統一、施設の老朽化の対応と公平な給食を提供する目的である。起債総額の抑制方針に従って適正な発行に努めたい。

◎ 政治家に対し、寄付を出すように勧誘や要求することは禁じられています。